



ホタルのふるさと 横浜 瀬上沢

認定特定非営利活動法人
ホタルのふるさと瀬上沢基金

会報 No.19

2022.6.1

〒234-0054 横浜市港南区港南台 9-30-31
Tel 090-6191-1861 / Fax 045-832-9167
E-mail segamikikin@gmail.com
ホームページ <http://www.segamikikin.org/>
県認証番号：N協第 1083 号
法人登録番号：0200-05-006727

横浜市環境アセス制度の欠陥を正せ

理事長 角田東一

瀬上沢基金は、上郷開発の環境アセスで審議されなかった危険な項目「舞上線の偏土圧による活動崩壊、産業廃棄物の埋没、湧水による地下水益化、風害」等について検討を加えるよう、何度も市長に陳情書を提出して来ましたが。

市長回答は、「環境アセス制度は、事業者の申請しか審査しない、市民から危険や虚偽データの指摘があっても事業者からの申請以外は検討しない」と、毎回同じ回答でした。

事業者は、「申請した資料以外は審査対象にならない」ことを逆手に取り 不利なデータは申請しないばかりかデータ改ざんまでして許可を取り着手した結果、不法造成を見逃していた野毛山の土砂崩れ、虚偽データを見逃していた都筑区のマンション傾き、産業廃棄物混入を見逃し許可した熱海伊豆山土砂災害、など重大な人身事故を引き起こしています。

新市長には、上郷開発を機に悪しき前例にとらわれず 指摘された危険性について十分な調査と対策を行えるよう、環境アセス制度を正し安易に許可しない事を願います。

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

令和4年3月1日
都 市 局

「宅地造成等規制法の一部を改正する法律案」 (盛土規制法案)を閣議決定

～危険な盛土等を全国一律の基準で包括的に規制します！～

盛土等による災害から国民の生命・身体を守る観点から、盛土等を行う土地の用途やその目的にかかわらず、危険な盛土等を全国一律の基準で包括的に規制する「宅地造成等規制法の一部を改正する法律案」(盛土規制法案)が、本日、閣議決定されました。



↑埋め立て造成予定の谷

←国交省資料より

猿田・深田地区

またもや木で鼻をくくった回答

理事 水野光彦 技術士(環境部門)

この陳情書(不正埋立ての刑事責任 22/4/6 回答)を上(市長)まで上げたのかも怪しいものです。

横浜市は憲法第 29 条 第 1 項の「財産権は、これをおかしてはならない」があるから大丈夫と高を括っているのでしょう。同第 3 項には「私有財産は、正当な補償の下に、これを公共のために用ひることができる」は考慮するのも面倒くさいのだとおもいます。

私は最近、ある企業や自治体が環境に対する考慮を真剣に考えるということは、その企業や自治体が社会に対して責任を負おうとしているか否かの指標である、と考えるようになりました。東急グループや横浜市には、これがまるで有りません。表面的な”持続可能な開発、SDGs” などという言葉を連発すれば、それでごまかせると考えているのでしょう。

JR港南台駅から横浜女子短大の横を過ぎ、その先のT字路を左折し、しばらく歩くと大きな十字路に出る、そこを右折し坂を下って行くと県立栄高校が左側に見える。

そこから先の道路を挟んで右側が瀬上沢の西の森である。

この森には今の横浜ではあまり見られない樹木や草本が繁茂している。

県初記載の幾つかの生物が生息し、6月と7月には自生のゲンジボタルとヘイケボタルが舞う姿を見ることができる。

これらの風景は我々を感動させる。現に横浜市議会の某議員は、栄高校から下方の眺めが横浜で最も好きなところであると言っている。

この場所を横浜市と東急建設は16mほど再度埋立て、そこにハコモノや住宅を建てるのが持続可能なまちづくりだと主張し、それを強行しようとしている。

基金は、今年の角田理事長の年頭のご挨拶【上郷開発却下に向けて】におけるように、開発決定の法的不備指摘を行っているが、それに対して横浜市は曖昧な回答をし続けて来た。

例えば、●産業廃棄物が埋められていることに対しては、事業者から申請されていないから関知しない ●周辺住民の賛同が得られていないことに対しては市民への説明会を行っている ●偏土圧や湧水※による滑動崩壊が検討されていないことに対しては環境アセスメントが通っている、等のはぐらかし回答が繰り返されている。

※湿地の真ん中へんにあるコンクリート製の井戸の傍で耳を澄ますと井戸の下をゴーゴーと流れる地下水の音を聞くことができる

このような横浜市の状態はどこに原因があるのか。

それは12年間の林市政が経済成長を最優先し、横浜の利権集団の主張をなにも吟味せずに受け入れてきたその姿にあるのではないか。 経済成長を希求してさえいれば、その他の事象はすべて枝葉末節であると切り捨ててきた強欲な企業集団と横浜市の歪んだ関係が上記のような回答をもたらしていると考ええる。

しかし、もはやこのような発想は受け入れられない。

それは地球温暖化の差し迫った脅威により安定な地球の状態を将来世代に手渡すためには資源の浪費に基づく経済成長第一主義ではやっていけないためである。

産業廃棄物が埋められている上にさらに16mモノやボロイ住宅を建てるのが持続可能なま
や東急建設はまちづくりから撤退、
いや市場から撤退してもらったのが最良の選択で



瀬上沢グリーンアップ活動へ参加している、賛助会員の桐山と申します。瀬上沢基金以外での活動では、逗子葉山にて里山自然の保全活動をおこなう「二子山山系自然保護協議会」の理事を務めており、またMTB(マウンテンバイク)を軸とした活動をおこなう団体「里山MTBみうら」も主宰しています。

瀬上沢を含む円海山周辺エリアは、子供の頃からの遊び場のひとつでした。社会人になって暫くは訪れることがありませんでしたが、二十年ほど前からハイキングやトレッキング等のアウトドアアクティビティで再び里山を訪れることが少しずつ増え、十数年ほど前からはMTBでも里山を楽しむようになりました。

瀬上沢グリーンアップ活動へは2016年6月からまずは一個人として参加、それからはMTBやアウトドアで繋がる知人友人に声を掛けながら、都合が合うときにはできるだけ参加を続けてきました。

◆何故わたしたちMTB乗りが瀬上沢のグリーンアップ活動に参加するのか。

MTBに限らず、アウトドアアクティビティは楽しめる自然(フィールド)があってこそです。特にMTBやトレイルランニングは山道などの未舗装路を楽しむ傾向が強いものですが、未舗装路だけあれば周囲の景色や自然が無くても良いわけではなく、周りの自然の豊かさも楽しみの一部です。

そして里山の自然は原生林とは違い、人による維持整備を継続的におこなうことで維持される環境です。維持整備が継続されなくなると、里山の自然は荒れてしまいます。現代では里山の自然を生業の場として維持整備する人はほとんど居なくなり、特に都市部やその近郊では多くが有志のボランティア活動頼みであることが実状です。その反面、近年はレクリエーション目的で里山の自然を利用する人たちは増えています。わたしたちは里山を利用する者として「受益者負担」の考えに基づいて里山保全活動に参加し実践することが、持続的な自然環境と持続的なMTBに繋がると考えています。

◆より良い自然環境を残し、自分たちも持続的に楽しんでいけるために。

わたしが現在おもに里山で楽しんでいるMTBでは、瀬上沢のような湿地帯はあまり関係が無いように見えます。けれども視点を大きくすると、瀬上沢は三浦丘陵の北端に位置する広大な面積の自然の一部です。自然環境が一部でも削られ無くなってしまうと、必ず何かしらの悪影響があるものです。グリーンアップ活動へ参加をしてから、瀬上池から少し離れた瀬上沢でも多くの水が湧き出していて、多くの動植物が生息する豊かな湿地帯であることをより深く知ることができました。

湿地帯は里山の豊かさの指標の一つである生物多様性の基盤となるものです。もし瀬上沢の自然環境が削られ破壊されたとしたら、瀬上池や円海山などの他のエリアへ悪影響が及ぶでしょう。水の流れという視点でも、瀬上沢がもし埋め立てられてしまえば、たち川への悪影響も当然考えられますね。

(次ページに続く)

(3 ページより続き)

瀬上沢が開発で失われることで、瀬上池など円海山周辺の環境や、MTB で楽しむフィールドにどんな悪影響があるのか予想できませんが、SDGs (持続可能な開発目標) の考えに基づけばこれ以上の自然破壊は無いほうが良いのは明確です。難しく考えなくとも、これほど広大な面積の自然がひとまとまりに残っている場所を開発によって削ってしまうというのは、これからの時代にはそぐわないものです。

そうした観点から、わたしたちはクリーンアップ活動への参加を継続し、その様子を里山 MTB みうらの Facebook ページに掲載しています。

この取り組みが少しでも瀬上沢基金の皆さんの助けになれば、そしてわたしたち MTB 乗り自身のフィールド保全活動の盛り上がりへと継続につながればと考えています。

微力ではありますが、今後もできる範囲でお手伝いを続けていく所存です。

引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

<https://www.facebook.com/satoyamamtbiura>



【お知らせ】

※ ミニ昆虫展開催！

7月30日(土)～8月4日(木)

港南台ケアプラザにて

7月31日(日)午後 講演会

講師に久保浩一氏を予定しています。

詳しいことが決まりましたら、

基金ホームページや

Facebook でお知らせします。



ホームページは
こちらから

※5月末よりコロナ禍で中止していた夜間昆虫調査への協力開始

※3/13、4/10、5/8、6/12 クリーンアップ実施しています。



※今年度も書面での総会といたします。

会員の皆様には表決書の返送をいただきありがとうございました。

正会員：42名 賛助会員：75名 法人正会員：1名 法人賛助会員：2名 JF 会員：29名
(会員数：149名) 寄付者：15541名 寄付額：1141万 2022.4.30 現在